

60th
year
anniversary

チルコロ・マンドリニスティコ・フローラ
創設60周年記念事業

CMF

～田中常彦の系譜を辿り、イタリアとの絆を紡ぐ～

第60回 定期演奏会

2025

10/13 (月・祝)

開場 13:30 / 開演 14:00

日立システムズホール仙台 コンサートホール (仙台市青年文化センター)



Circolo Mandolinistico Flora

主 催 ◆ チルコロ・マンドリニスティコ・フローラ
助 成 ◆ 公益財団法人 カメイ社会教育振興財団 (仙台市)
後 援 ◆ 公益財団法人 仙台市市民文化事業団 河北新報社 TBC東北放送 NHK 仙台放送局  Daiwa
公益社団法人 宮城県芸術協会 仙台日伊協会 一般社団法人 日本マンドリン連盟 宮城県 仙台市 宮城県教育委員会 仙台市教育委員会



本日はお忙しい中、ご来場いただきありがとうございます。

チルコロ・マンドリニスティコ・フローラ（以下「フローラ」と表記）は、今年で創設 60 周年を迎えました。これを記念して、本年の演奏会活動は、「フローラ」の生みの親、育ての親でもある恩師 田中常彦先生の偉業を改めて振り返り、5 月の Concerto Primavera（春のコンサート）と今回の第 60 回記念定期演奏会を通して“田中常彦の系譜を辿り、イタリアとの絆を紡ぐ”をテーマに、開催することといたしました。田中先生は、その師である A. サルコリ氏、また 1910 年代の世界最高のマンドリニスト R. カラーチェ氏の下でイタリアマンドリンを研鑽された唯一の専門家です。本年は春秋を通じて、田中先生ご本人の作品と先生と縁の深い G. ナポリ氏、A. サルコリ氏、R. カラーチェ氏の作品を中心にプログラムを組み、さらに、私がイタリアのジェノヴァやタオルミーナのマンドリン合奏団から贈られたオリジナル作品やカンツォーネ・ナポレターナなどを演奏します。また、本日の定期演奏会には、ソプラノ歌手としてご活躍中の三野宮まさみ氏を迎えるとともに、大阪の「アンサンブル・フィオーレ」や名古屋の「プレットロ・ロマンティコ」の有志、仙台の「ソナーレ・マンドリーノ」の皆様にご参加いただき、花を添えていただきます。

「フローラ」の 60 年の歩みは別記のとおりですが、田中先生の指導を礎に、一貫してイタリアの作品を中心に取り組み、演奏発表してきました。この間、概ね週一回の練習は、大震災のときも、コロナ禍のときも殆ど休むことなく継続し、定演も（無観客はあったものの）一度も中断することなく開催して来られたのは、偏に、心をつにして支えてくれたメンバー諸氏、ご指導、ご支援下さった先達の方々、関係各位、ご声援いただいた皆様のお蔭と深く感謝しております。

田中先生と A. サルコリ氏、R. カラーチェ氏の交流から約 110 年、その系譜上にある「フローラ」60 年の歴史は、私共の誇りでもあります。その流れを大切に守りながら、今後もマンドリン界の発展を目指し、またマンドリン音楽の真髄を求め、活動が続けたいと考えております。さらなるご支援、ご指導をよろしくお願い申し上げます。

高橋 五郎（主宰 指揮者）

- 1943 年 仙台市に生まれる
- 1955 年 マンドリンを独学で始める
- 1960 年 故・木下三郎氏に師事
- 1963 年 東北学院大学プレクトラム・ソサエティー創設
- 1964 年 故・田中常彦氏に師事（マンドリニストとして田中氏の唯一の弟子となる）
- 1965 年 **チルコロ・マンドリニスティコ・フローラ創設、主宰**
- 1966 年 チルコロ・フローラ第 1 回定期演奏会を開催（以後継続して開催）
- 1971 年 イタリアに游学、故・ニーノ・カターニア氏に師事
- 帰国後、リサイタル等多数開催
- 2015 年 チルコロ・フローラ第 50 回記念定期演奏会を開催

主な役職

- ・（一社）日本マンドリン連盟会長（2019 年～）
- ・（一社）日本マンドリン連盟東北支部支部長
- ・（公財）宮城県芸術協会参事
- ・仙台日伊協会理事

主な受賞歴

- 1989 年 日本マンドリン連盟永年功労賞
- 2008 年 宮城県教育文化功労賞（文化の日表彰）
- 2024 年 文化庁地域文化功労者表彰（文部科学大臣表彰）



高橋五郎先生の受賞を祝う会
宮城県教育文化功労賞 2009

第60回定期演奏会に寄せて

一般社団法人日本マンドリン連盟 事務局 渡邊 昇

チルコロ・マンドリニスティコ・フローラ第60回定期演奏会に際し、一言お祝いを申し上げます。チルコロ・フローラは今年創設60周年を迎えられ、さまざまな記念事業に取り組んでおられると伺っています。第60回定期演奏会はそのメインとなるステージであり、プログラムを拝見しただけでチルコロ・フローラの皆さんの並々ならぬ意気込みが伝わってきます。

さて、チルコロ・マンドリニスティコ・フローラは、1965年仙台市において「高橋五郎とチルコロ・フローラ」として発足、翌年オデル・マンドリン・クラブと合併し「チルコロ・マンドリニスティコ・フローラ」（略称チルコロ・フローラ）と改名して現在に至っています。チルコロ・フローラを主宰する高橋五郎氏は、プロのマンドリン奏者・指導者として精力的に活動される一方で、当連盟の草創期（全日本マンドリンの群れ）より連盟の発展に尽力され、現在は一般社団法人日本マンドリン連盟会長（兼東北支部長）として重責を担っておられます。1968年に日本マンドリン連盟が正式に設立されると、初代会長には田中常彦氏が就任しました。田中常彦氏は、2度にわたるイタリア遊学などを通じて本格的なイタリア奏法を修め、わが国のマンドリン音楽の基礎を築いた偉大なる先達です。そして、田中氏が1975年に亡くなるまでの10年間、毎月レッスンに通いその輝きと艶のある音色や情感あふれる深い表現を学ばれたのが、高橋五郎氏です。また、高橋氏は1973年にイタリア遊学を果たし、「マンドリンのパガニーニ」と称されたマンドリニスト、ニーノ・カタニア氏に師事し、イタリア伝統の奏法と人間味あふれる表現を吸収されました。高橋氏の長年にわたるご指導のもとで、チルコロ・フローラは生粋のイタリア・マンドリン音楽を体現しているわが国でも数少ない合奏団であると評価されています。

チルコロ・フローラは発足当時より、イタリアのマンドリン音楽を中心としたプログラムで演奏活動を継続してこられました。定期演奏会及びソロとアンサンブルの集いをメインとして、さまざまな訪問演奏や客演などに年間を通じて取り組んでおられます。時にはイタリアから合奏団やソリストを招聘し、彼らとの共演を通じて表現と技術に磨きをかけるなど、わが国のマンドリン合奏団の中でもとりわけ異彩を放つ存在となっています。今日は、プログラムにある「田中常彦の系譜を辿り、イタリアとの絆を紡ぐ」の副題どおり、60年の歴史の重みを感じさせる、メンバーの皆様の熱のこもった演奏が披露されることと存じます。

最後になりましたが、会場にお越しの皆様が、チルコロ・フローラならではのイタリア・マンドリン音楽のエッセンスを心ゆくまで堪能されることを念願し、お祝いの言葉といたします。

第60回記念定期演奏会に寄せて

マンドリニスト 堀 雅貴

このたびは第60回記念定期演奏会のご開催、心よりお祝い申し上げます。

フローラの演奏を初めて拝聴した時、音楽の流れの美しさと同時に、その背景にある時間の重みと、関わっていらっしゃる皆さまの誠実な姿勢に深く胸を打たれました。今回、こうして記念すべき節目に寄せて言葉をお贈りする機会を頂きましたこと、たいへん光栄に存じます。

「団体を続ける」ということは、言葉では簡単に言えても、実際にはたやすいことではありません。何年、何十年と活動を続けていくには、表からは見えない多くのご苦勞が積み重なっているかと存じます。音楽への情熱が泉のように湧き続け、そしてそれを支え合う信頼が、皆さまの間に確かに築かれていなければ、ここまでの道のりを歩むことはできなかったのではないかと思います。60回という数字は、まさに驚くべき偉業であり、その一步一步を丁寧に積み上げてこられた皆さまの歩みに、心から敬意を抱いております。

今回の演奏会のテーマとして掲げられている「田中常彦の系譜を辿り、イタリアとの絆を紡ぐ」。この言葉に深く共感いたしました。田中常彦という存在が、日本のマンドリン音楽にどれほどの影響を与えたか、折に触れて学ばせていただいております。その教えを直接受けられた高橋五郎先生が、フローラの皆さまと共に音を紡ぎ続けてこられたことには、並々ならぬ意味があると感じています。

今日の演奏会は、チルコロ・マンドリニスティコ・フローラという団体の記念というだけでなく、日本のマンドリンが西洋音楽として伝えられてから120年以上にわたる歴史の、確かな延長線上にある「現在地」として、私には思われなりません。田中常彦が活躍された時代、洋楽が日本に根づこうとしていたその黎明の時間と、今この場で鳴り響く音とが、一本の線につながっている——そんな歴史の連なりの中に、私たちが立ち会わせていただいていることに、ひとりの音楽人として深い感動を覚えます。

高橋五郎先生がこれまで心血を注がれてきたご指導と、フローラの皆さまが音楽を通して紡がれてきた時間。その積み重ねが、今日の演奏会というひとつの響きに結晶しているのだと思います。そこに立ち会えることを、心からの誇りとともに受けとめています。

本日の演奏会が、皆さまの歩みをあらためて照らし出し、また次なる一歩への静かな力となりますことを願ってやみません。そして、今日響く音が、これからの未来に向けて、新たな絆を結んでいく力となりますように。

あらためて、第60回という節目に心よりの敬意とお祝いを申し上げます。

チルコロの60年に感謝をこめて

マンドラ 相原 進

私がチルコロ・フローラに入部したのは、第2回の定期演奏会の年（1967年）です。五郎先生も部員も皆さん若かった。周りはきれいなお姉さまばかりで、未成年の私にはとてもまぶしかったです。

当時の練習場はお寺の納骨堂で、仙台駅西口、今の“仙台朝市”の近くにありました「妙護寺」というお寺さんだったのです。今では立派なマンションになっており、昔の面影は何一つ残っておりませんが、今でもここを通るたびに、あの時のにぎやかだった様子が目に浮かび、会話が聞こえてきそうです。私にはとても大切な場所です。

こんな事がありました。これは後になってから五郎先生に伺った話です。当日は寒い日で、暖房が必要だったそうです。エアコンどころかファンヒーターなども未だありませんので、ダルマストーブです。早く練習に来られた方が、社務所に石炭と焚き木を取りに行き、ストーブに火をおこし、部屋を暖めておくのが仕事だったのです。しかしこの日に限り、五郎先生が一番早くに来られたそうです。次の人がなかなか集まらず、自分で石炭を取りに行き、ストーブに火をおこし、部員の到着を待ちましたが、1時間経ち、2時間近くになっても誰も現れなかったそうです。当然、練習にはなりません。火の始末をし、戸締りをして一人帰られたとのこと。後日、この話を聞き、欠席者の一人として、ただただ“申し訳ございません”の一言でした。五郎先生はあの時どんな思いで帰られたのでしょうか。なぜ一人も集まらなかったのか…。

こんなこともありました。第19回定期演奏会の頃、40年以上前の話で、今となっては知らない部員も多いかもしれません。五郎先生は“胃摘出”の大手術をなさっているのです。手術前の五郎先生と言えば、人の2倍は序の口、3倍はペロリと食べるほどの大食漢だったのです。その様な方が、食べることができなくなってしまったのです。体重は半分ほどに減り、食事は一口、一口、小分けして少しずつ、少しずつと時間をかけて済ませておりました。どんなにか辛い、苦しい闘病生活だった事でしょう。我々は何もしてあげられず、ただ見守っているだけだったのです。“どうしてそんなに頑張るの？”と声を掛けたくなるほどの頑張り様だったのです。執念と思えるほどに。

五郎先生は、闘病生活だけではなく、自分の生き方など、“良い面”も“そうでない面”も全く気にすることなく我々に見せて来られた方です。見た目にはとてもソフトで、優しさの塊りの様に見えますが、でもその優しそうな笑顔にこそ騙されてはいけません。内に秘められた思いはとても強く、妥協は決して許しません。“来るもの拒まず、去る者は追わず”の姿勢は昔も今も変わりません。

一口に60年と言いますが、本当に長い年月です。この短く拙い文章の中で、全体を振り返ることはとてもできません。本日の定期演奏会にご出演いただく三野宮まさみさんを始めとする多彩かつ多数の客演者の皆さま、楽曲を提供いただいた作曲者の方々、ご指導、ご支援いただいた多くの関係者の方々、そして何よりも毎回聴きに来てくださる皆さまには、どれほど感謝しても感謝し切れません。県内、国内のみならず、イタリア、中国など海外の音楽家との交流も、音楽表

現の目指すところを深化させ、高めてもいただきました。あらためまして、心より御礼を申し上げます。

部員の皆さんにも一言。チルコロ・フローラで演奏活動できることを当たり前のこととは考えないでください。参加したくても参加できない多くの方々がいるのを忘れないで欲しい。少し前まで、弘前、八戸、新庄、山形などから、ある方は新幹線で、またある方は車でチルコロの練習に通われました。まだ記憶に新しいことです。「高橋五郎」が仙台にいるからこそ、我々は地元で指導を受けられます。我々は、とても恵まれた環境の下で、共に演奏活動を行うことができます。感謝すべきことと思います。

最後に、五郎先生へ。もう長い間走り続けです。第60回記念定期演奏会を終えられましたなら、少しだけでも休息を取っていただきたいと思います。温泉にでも入られて、少しのんびりなされてはいかがでしょうか。“傘寿”はとくに過ぎられたのですから、どうぞお体を労わってください。そして、これからも我々が気を緩めることが無いよう、優しさと厳しさをもって、今後に続く新しい1歩を共に歩ませていただきたい。まだまだ教えていただきたいことがたくさんありますので!!これまでの長い間、ご指導本当にありがとうございました。



チルコロ・フローラ 第36回定期演奏会 2001



2005.10 第40回定演 ナボレターナ第一人者を迎えて



ジーノ・ネリ・アンサンブル&日本マンドリン連盟東北支部
仙台合同演奏会

2004.8.26 イタリアンレストラン VINO IL SALOTTO にて



チルコロ・フローラ 第46回定期演奏会 2011

チルコロ 60 年のあゆみ

1965	4.	マンドリン合奏団を結成、名称を「高橋五郎とチルコロ・フローラ」とする。
1966	1.	「オデル・マンドリン・クラブ」(木下三郎主宰)と合併し、「チルコロ・マンドリニスティコ・フローラ」(Circolo Mandolinistico Flora)と改名。
	11. 2	第1回定期演奏会 : 仙台市公会堂(現 仙台市民会館)〔特別出演〕指揮: 田中常彦
1967	11. 28	第2回定期演奏会 : 宮城県民会館 大ホール 〔特別出演〕指揮: 田中常彦
1968	12. 17	第3回定期演奏会 : 宮城県民会館 大ホール 〔特別出演〕指揮: 田中常彦
1970	6. 25	《高橋五郎 第1回マンドリン・リサイタル》: 宮城医師会館ホール
	10. 15	第5回定期演奏会 : 宮城県民会館 大ホール 〔特別出演〕指揮: 田中常彦
1971	12. 10	《東北マンドリン連盟 第1回合同演奏会》: 宮城県民会館 大ホール
1973	3. 4	《高橋五郎第2回マンドリン・リサイタル(渡欧記念)》: 宮城医師会館ホール
1975	12. 2	第10回定期演奏会「田中常彦先生追悼」: 仙台市民会館 大ホール 〔賛助出演〕常盤本学園高校マンドリン・クラブ, ピアノ: 大泉 勉
1976	7.23~24	《中野二郎先生講習会と講演会》参加 : 仙台市看護会館 〔指揮〕高橋五郎
	9. 29	《日本マンドリン連盟東北南支部「第1回マンドリン合同演奏会」》: 電力ホール 〔指揮〕高橋五郎
1977	11. 6	《高橋五郎マンドリン・リサイタル》: 東京日仏会館ホール
1980	10. 29	第15回記念定期演奏会 : 電力ホール〔賛助出演〕指揮: 柳田隆介, 岩崎知郎, ピアノ: 大泉 勉, ソプラノ: 姉齒けい子, テノール: 吉田イサム
1981	4. 26	《日本マンドリン連盟東北南支部「第2回マンドリン・フェスティバル」》 : 仙台市民会館 大ホール
	5. 27	イタリア地震救援「チャリティー・コンサート」: 電力ホール 〔指揮〕高橋五郎, テノール: 吉田イサム
1982	5. 23	第1回「ソロとアンサンブルの集い」: 仙台市戦災復興記念館 記念ホール
1985	10. 18	第20回記念定期演奏会 : 電力ホール 〔指揮〕柳田隆介, 穴戸秀明, 高橋五郎 〔客演〕ピアノ: 大泉 勉, ソプラノ: 姉齒けい子, テノール: 吉田イサム
1986	6. 1	第5回「ソロとアンサンブルの集い」: 仙台市戦災復興記念館 記念ホール
1989	8. 12	《日本マンドリン連盟東北支部「第5回マンドリン・フェスティバル」》: 電力ホール 〔特別出演〕ソプラノ: 姉齒けい子
1990	9. 24	第25回記念定期演奏会 : 電力ホール 〔客演〕指揮: 穴戸秀明, ピアノ: 大泉 勉, マリンバ: 鶴岡たみ子 ソプラノ: 姉齒けい子, テノール: 吉田イサム, ソプラノ: 渡部ジュディス
1991	5. 11	第10回ソロとアンサンブルの集い : 仙台市戦災復興記念館 記念ホール
1993	10. 23	第28回定期演奏会 : 仙台市青年文化センター コンサートホール 『マンドリン音楽の巨匠 中野二郎氏をお迎えして』 〔客演〕ソプラノ: 渡部ジュディス 〔指揮〕中野二郎, 高橋五郎, 佐藤雅洋
1994	11. 5	第29回定期演奏会(第3回仙台市芸術祭・マンドリン渡来100年記念) : 仙台市青年文化センター コンサートホール 〔客演〕二胡: 劉 継紅, 琵琶: 余 明
1995	6. 11	《高橋五郎第5回マンドリン・リサイタル》: 仙台市戦災復興記念館 記念ホール
	10. 27	第30回記念定期演奏会 : 電力ホール 〔客演〕琴: 林 映子 〔指揮〕高橋五郎, 佐藤雅洋, 高橋勇人
1999	10. 10	《日本マンドリン連盟東北支部「第10回マンドリン・フェスティバル」》: 山形県天童市
2000	10. 14	第35回記念定期演奏会 : 仙台市青年文化センター コンサートホール 〔客演〕ソプラノ: 佐藤順子, テノール: 山田正明
2001	6. 30	生誕100年中野二郎の世界 第19回ソロとアンサンブルの集い : 仙台市戦災復興記念館 記念ホール
2002	6. 15	第20回ソロとアンサンブルの集い : 仙台市戦災復興記念館 記念ホール
	10. 13	第37回定期演奏会 : 仙台市青年文化センター コンサートホール 〔客演〕マンドリン: ジャンネッティ・フェデリコ, 歌&ギター: アントニオ・フェランテ
2004	8. 26	ジーノ・ネリ・アンサンブル&日本マンドリン連盟東北支部 仙台合同演奏会 : 仙台市青年文化センター コンサートホール 〔指揮〕スティファノ・スカルツィーナ, 高橋五郎

2005	10. 18	第 40 回定期演奏会 : 仙台市青年文化センター コンサートホール ※客演を予定していたジャンネッティ・フェデリコ氏とアントニオ・フェランテ氏の来日が、 フェデリコ氏の交通事故により中止になる。翌年、第 41 回定演で実現。
2006	7. 19	“クラウディオ&マウロ・テローニ マンドリン合奏団” “チルコロ・フローラ” 合同演奏会 : 電力ホール [指揮] ドリナ・フラティ、高橋五郎
	11. 5	第 41 回定期演奏会 : 仙台市青年文化センター コンサートホール [客演] マンドリン: ジャンネッティ・フェデリコ、歌&ギター: アントニオ・フェランテ
2007	8. 25	ニーノ・カタニア生誕 100 年記念 第 42 回定期演奏会 : 仙台市青年文化センター コンサートホール [客演] マンドリン: カルロ・アオンツォ、ギター: 長岡克己
	8. 26	ニーノ・カタニア生誕 100 年記念 カルロ・アオンツォ&長岡克己デュオリサイタル : 仙台市戦災復興記念館 記念ホール
2009	1. 12	《高橋五郎 平成 20 年度宮城県教育文化功労者祝賀会》: 仙台エクセルホテル東急
	9. 20	《日本マンドリン連盟東北支部「第 15 回マンドリン・フェスティバル」》: 大崎市民会館
2010	10. 10	創設 45 周年記念演奏会 : 仙台市青年文化センター コンサートホール [客演] アンドレア・コロネッラ [賛助] アンサンブル フィオーレ ディ オオサカ
2011	9.16~25	イタリア演奏旅行
	9. 18	マウロ・テローニ&チルコロ・フローラ合同演奏会 : プレシア
	9. 21	マウロ・テローニ&ジーノ・ネリ&チルコロ・フローラ合同演奏会 : フェラーラ
	9. 22	チルコロ・マンドリニスティコ・フローラ演奏会 : チェルビア
	11. 23	「東日本大震災復興支援 〜石巻・モンタルチーノ祭り〜」 : サン・ファンパーク (石巻市)
2012	6. 10	「中野二郎生誕 110 周年記念演奏会 〜中野二郎の世界〜」 [賛助出演]: 愛知県名古屋
2013	10. 20	第 48 回定期演奏会 : 日立システムズホール仙台 コンサートホール [客演] マンドリン: ドリナ・フラティ
	10. 22	ドリナ・フラティ マンドリンリサイタル : 仙台市宮城野区文化センター パトナホール マンドリン: ドリナ・フラティ、ピアノ: 福原佳三
	10. 23	ドリナ・フラティ 公開レッスン : エル・パーク仙台
2014	7. 21	「来たれ愛しのマンドリン サマーコンサート」 アンサンブル フィオーレ ディ オオサカ&チルコロ・マンドリニスティコ・フローラ合同演奏会 : 大阪府豊中市 豊中アクアホール
	9. 15	「カメイコレクションの逸品!」関連イベント ギャラリーコンサート : カメイ美術館
2015	9. 23	創設 50 周年記念事業 第一夜 第 50 回記念定期演奏会 : 日立システムズホール仙台 コンサートホール [客演] マンドリン: ドリナ・フラティ、チェンバロ: ダニエーレ・ロイ
	9. 25	創設 50 周年記念事業 第二夜 協奏曲と古典のタベ : イズミティ 21 小ホール マンドリン: ドリナ・フラティ、チェンバロ: ダニエーレ・ロイ
	9. 26	ドリナ・フラティ 公開レッスン : 仙台市戦災復興記念館 展示ホール
2016	7. 16	第 30 回ソロとアンサンブルの集い : 仙台市戦災復興記念館 記念ホール
2018	3. 25	《日本マンドリン連盟創立 50 周年記念事業〜海外演奏家招聘》: 多賀城市民会館大ホール マンドリン: ドリナ・フラティ、ピアノ: ダニエーレ・ロイ
2019	9. 15	《日本マンドリン連盟東北支部「第 20 回マンドリン・フェスティバル」》: 岩手県盛岡市
2020	8. 22	第 55 回定期演奏会 : 日立システムズホール仙台 コンサートホール ※新型コロナウイルスの影響のため、無観客 (YouTube 配信) にて開催
2024	11. 13	《高橋五郎 令和 6 年度地域文化功労者表彰 (文部科学大臣表彰) 受賞》
2025	5. 31	創設 60 周年記念事業 春の部 Concerto Primavera : 仙台市宮城野区文化センター パトナホール
	10. 13	創設 60 周年記念事業 秋の部 第 60 回記念定期演奏会 : 日立システムズホール仙台 コンサートホール [客演] ソプラノ: 三野宮まさみ



チルコロ・フローラ 第 1 回定期演奏会 1966

プログラム

《 第 1 部 田中常彦トリビュート 》

I ソロ

マンドリン 村山 真子

・小さなガヴォット
Piccola Gavotta

R. カラーチェ
Raffaele CALACE

マンドリン 相澤 徹 ピアノ 三浦 園子

・ナポリの思い出 - 無言歌
Ricordo di Napoli - Romanza Senza Parole

田中常彦
Tsunehiko TANAKA

マンドリン 大槻 光夫

・月に向かい
Serenata alla Luna

A. サルコリ
Adolfo SARCOLI

II 合奏

・ナポリの思い出
Rimembranza Napoletana

R. カラーチェ／田中常彦編曲
Raffaele CALACE / Rid. Tsunehiko TANAKA

・間奏曲
Intermezzo

R. カラーチェ
Raffaele CALACE

・断片
Frammento

G. ナポリ／高橋五郎編曲
Gennaro NAPOLI / Rid. Goro TAKAHASHI

・アンジェラスの鐘
L'Angelus

G. ナポリ／田中常彦編曲
Gennaro NAPOLI / Rid. Tsunehiko TANAKA

・行進曲 「祭りの日」
Un Giorno di Festa

田中常彦
Tsunehiko TANAKA

・哀愁

田中常彦
Tsunehiko TANAKA

・囀る小鳥
Polka

田中常彦
Tsunehiko TANAKA

・幻想曲「箱根八里」
Fantasia Hakone-Hachiri

田中常彦
Tsunehiko TANAKA

《 第2部 イタリアとの絆 》

Ⅲ カンツォーネとアリア

- ・ナポリは唄う
Comme se Canta a Napule
E .A. マリオ／高橋五郎編曲
E.A.Mario / Rid. Goro TAKAHASHI
- ・セレナータ ナポレターナ
Serenata Napolitana
E. タリアフェッリ／高橋五郎編曲
Ernesto TAGLIAFERRI / Rid. Goro TAKAHASHI
- 【客演】 ソプラノ：三野宮 まさみ
- ・5月よ はい あなた！
Maggio, si' tu !
E .A. マリオ／高橋五郎編曲
E.A.Mario / Rid. Goro TAKAHASHI
- ・オ ソーレ ミオ！（私の太陽）
O Sole Mio !
E . D . カプア／高橋五郎編曲
Eduardo Di CAPUA / Rid. Goro TAKAHASHI
- ・私の優しいお父さん～歌劇「ジャンニ・スキッキ」より
O mio babbino caro～Opera "Gianni Schicchi"
G . プッチーニ／内藤淳一編曲
Giacomo PUCCINI / Rid. Junichi NAITO

Ⅳ 合奏

- ・C.P.O. ラブソディ
C.P.O. Rhapsody
S. スカルツィーナ
Stefano SQUARZINA
- I 都会的な前奏曲 Preludio Metropolitano
- II シャンソン1 Prima "Chanson"
- III 間奏曲 Interludio
- IV シャンソン2 Seconda "Chanson"
- V 真夜中のサンバ Samba di Mezzanotte
- ・ナポリの風景
Quadretti Napoletani
I. クロッタ／N. カターニア編曲
Illuminato CURROTA / Rid.Nino CATANIA
- I サンタルチアの祭 Festa a Santa Lucia
- II ポジリポ地方の唄 Canzone a Posillipo
- III 入り江を照らす満月 Plenilunio sul Golfo
- IV 祭日の悪戯っ子 Scugnizzi in Festa

主な曲目紹介

◆ ナポリの想い出、間奏曲

作曲者のラッファエーレ・カラーチェ（1863-1934）はナポリ市に生まれた。プレクトラム音楽の輝かしい発展に刺激され、50年にわたりエネルギーをこの仕事に注いだ。

「ナポリの想い出」は初期の作品で、中後期に比して技術的に困難なところは無いが、上品で好ましい。

「間奏曲」は後期の作品で、当時、ナポリ市で高名を博していた作曲家G・ナポリ氏の作風への傾倒が窺われ、斬新な空気が漂う。

◆ 断片、アンジェラスの鐘

作曲者のジェンナーロ・ナポリ（1881-1943）はナポリ市に生まれ、若い頃から殊に交響楽作曲に優れた手腕を発揮し、1920年頃はナポリ国立音楽学校の教授を務めていた。この時代、田中常彦氏やR・カラーチェ氏もG・ナポリ氏の教えを受けた。特に、田中常彦氏にとっては和声学、作曲法の師である。

「断片」はマンドリンソロとピアノの二重奏曲として出版されたもので、ナポリ市の誇る世界的名マンドリニストで、楽器製作家、作曲家としても活動していたR・カラーチェ氏に献曲された。

「アンジェラスの鐘」はピアノの小品として作曲された。当時としては斬新な和声、快い不協和音が、変化に富んだテンポを以て巧みに織り込まれ、極めて軽妙できれいな曲である。アンジェラス（天使）の鐘は、ローマ正教の寺院で鳴らす夕べの祈りの鐘のことを言う。

◆ 囀る小鳥、幻想曲「箱根八里」

作曲者の田中常彦（1890-1975）は、明治末から我が国のマンドリン界に尽くされ、日本マンドリン界の父と称される。

田中先生は、当団主宰者の高橋五郎が学生時代から指導を受けた恩師であり、そのご縁でチルコロ・フローラの第1回から第8回（第6回は除く）までの定期演奏会に客演指揮者としてご出演いただき、当団を創設当初から育てていただいた大恩人である。

「囀る小鳥」は、四分の二拍子の舞曲である。日本人の作品とは思えないほど洋風軽快なボルカである。

「箱根八里」は、古くから歌い継がれた民謡をモチーフに、幻想曲として1966年の第1回定期演奏会のために贈っていただいたものである。今の時代にはないのんびりとしておらかなものが感じられる。

◆ C・P・O・ラブソディ

作曲者のステファノ・スカルツィーナは、1966年イタリアのトレスィガッロ（フェッラーラ）に生まれ、G・フレスコバルディ音楽院でオーボエを専攻した。1990年より作曲研究に没頭する一方、ミラノ市立音楽院、G・Bマルティーニ音楽院（ボローニャ）で指揮法を学び、2000年頃よりマンドリン合奏団「ジーノ・ネリ」の指揮を務め、その他、オペラ、管弦楽、吹奏楽など多方面で活躍している。

本曲は、マンドリン合奏団「ジーノ・ネリ」のために2000年に作曲された。2004年に一部改訂されており、本日演奏するのはこの改訂版である。曲名の「C・P・O」はイタリア語の“cipollina”（小さな玉ねぎ）の略であるが、これは作曲家スカルツィーナの恋人エレナの愛称“Cipo”（チポ）を指し、愛情をもって彼女に捧げられた作品であることを示している。「現代的なリズムや特殊奏法」と「憂いや懐かしさを表現したメロディー」が共存し、終曲のサンバで華やかに終わる。チルコロ・フローラ第40回定期演奏会（2005）において全楽章を本邦初演。



ステファノ・スカルツィーナ

◆ ナポリの風景

作曲者のイルミナート・クロッタ（1892-1979）は、イタリアのミラノで作曲家、指揮者として活躍したようで、数曲のオーケストラ曲が残されているが、その経歴の詳細は不明である。

本曲は1939年に出版発表されたオーケストラ曲である。4曲からなる組曲であるが、いずれもナポリ地方の舞曲タランテラや、当時流行したカンツォーネ・ナポレターナを素材として、往時のナポリの風景を描写している。

編曲者のニーノ・カターニア（1907-1985）は、1956年に“Complesso a Plettro di Genova”を結成し、その楽団のために多数の曲を編曲した。本曲は1960年頃、同団の演奏によりレコード録音されている。原曲の調を移した編曲は、マンドリンの響きをより効果的にして、ナポリの古き良き時代を彷彿とさせる。

三野宮 まさみ [ソプラノ]

Masami Sannomiya

東京音楽大学声楽科卒業。姉歯けい子、中沢桂に師事。

1994年よりイタリアに留学。カルロ・ベルゴンツィ主催「ヴェルディの声アカデミー」、ミラノ音楽院にて研鑽を積む。1995年フィデンツァ・マニアーニ歌劇場での財団主催オペラガラコンサートでイタリアデビューを果たす。その後、ミラノ・アッピアーテグラッソではヴェルディ作曲「運命の力」レオノーラを歌った他、パルマ、モデナ、ローマなどイタリア各地でオペラ、コンサートに出演。1996年よりドイツ・ベルリンに渡り、ドイツ、オーストリア、スイス、ハンガリーでコンサートに出演。2000年には奨学生として再度イタリアに渡り、ローマ芸術院で更に研鑽を積む。また宮城県芸術協会会員として、中国、韓国での演奏旅行に同行した。リサイタル、ジョイントコンサートの他、オペラ、ベートーベン「第九」、フォーレ「レクイエム」ソプラノソロ、現代音楽など様々なコンサートに出演している。

第5回大曲新人音楽祭グランプリ受賞。

仙台日伊協会会長。宮城県芸術協会会員。



◆ ソナーレ・マンドリーノ 紹介

2008年NHK文化講座「マンドリンを楽しむ」として創設。2024年改名し現在に至る。

「ソナーレ」はイタリア語で“奏でる”“響く”の意。

◆ アンサンブル フィオーレ ディ オオサカ 紹介

1986年大阪樟蔭女子大学マンドリンクラブ卒業生有志により結成。主宰者葛原睦子氏を中心に幅広い演奏活動を続けている。

◆ プレットロ・ロマンティコ 紹介

ギター・マンドリン界の巨匠中野二郎(1902-2000)が1969年に創設したマンドリン合奏団。中野先生による作曲や編曲の作品を先生の指導のもと演奏する活動を行う。2000年に先生が亡くなられた後ご子息の指揮により活動は続いたが、現在は会員により自主的に音楽活動を行う形になる。月2回の例会では「中野音楽」を後世に伝えることを主眼に、先生の作品やイタリアのマンドリン合奏曲等を演奏する活動を行っている。



チルコロ・フローラ 第28回定期演奏会 1993
マンドリン音楽の巨匠 中野二郎氏をお迎えして



中野二郎生誕110周年記念演奏会
～中野二郎の世界～ 2012

田中常彦 年譜

◆ マンドリニストへの道 ～サルコリに導かれて～

- 1890 年 4月14日生まれ、東京麻布に生まれる。
1910 年 慶應義塾マンドリン倶楽部創立
1911 年 来日したイタリアの世界的な声楽家・作曲家アドルファ・サルコリ氏の知遇を得て、本格的なイタリア奏法を学ぶ。
1913 年 慶應義塾大学理財科卒業
1915 年 武井守成兄弟にマンドリン・ギターの教授を行い、「オルケストラ・シンフォニカ・タケキ」の礎石を創り育成する。因みに、詩人 萩原朔太郎も指導を受けている。

◆ 最初のイタリア留学 ～カラーチェとの親交～

- 1920 年 イタリア留学。ジェンナーロ・ナポリ氏に和声法、対位法、作曲を師事。同門にいた世界的なマンドリニストのラファエレ・カラーチェ氏にマンドリンを師事。レッスンを受ける傍ら、オーケストラ、五重奏の一員として演奏活動を行う。
1924 年 帰国し、演奏活動や作編曲、指導を行う。
1925 年 アルス「西洋音楽大講座 (3) マンドリン科」を執筆。

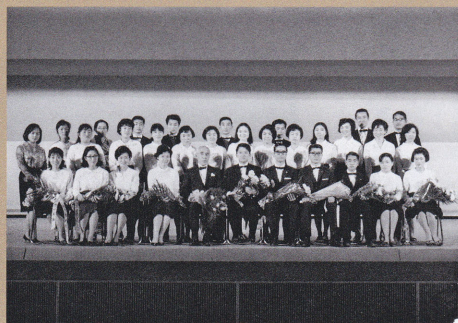
◆ 2度目のイタリア留学 ～ピアニストの夫人と共に～

- 1927 年 再び渡伊。作曲、演奏の研鑽を積む。ピアニストの堯子夫人同行。
1931 年 帰国。戦前のマンドリン音楽発展期に尽力。

◆ 後進の育成 ～「市井の仙人」～

- 1933 年 春陽堂「西洋音楽技法入門 (6) 『マンドリンの奏法』」を執筆。
1968 年 日本マンドリン連盟初代会長に就任。和光同塵たるその人格から、同じくギター・マンドリン文化に多大なる貢献をした中野二郎 (1902～2000) をして「市井の仙人」と言わしめた。
1972 年 長年に亘るマンドリン音楽に関する功績に対し、勲四等瑞宝章受章。
1974 年 BDZ (ドイツギターマンドリン連盟) より、特別功労者に授与される「金のバッジ」が贈られる。
1975 年 7月5日逝去 享年 85

※堀雅貴 CD「田中常彦の生涯」ライナーノーツより引用、加筆



チルコロ・フローラ第2回定期演奏会 1967
中央：田中常彦氏 高橋五郎



(左) 田中常彦氏

日本マンドリン界の巨匠 田中常彦

高橋 五郎

私がマンドリンを学びたいと田中常彦先生の門を叩いたのは1964年4月、20歳の時のことである。12歳の頃から独りマンドリンを楽しんでいたが、常々壁に突き当たり、思うような上達はできずにいた。これはきっと基礎訓練の欠如によるものと考えようになっていた。そんな時ふと目にしたのが高橋功氏による「アルモニア別冊」第1集(1958年刊)に掲載された「右手の工夫」という一文であった。筆者は田中常彦とあり、初めて田中先生存在を知った。拝読して感動したので、思い立ったら吉日と、無鉄砲にもアポ無しで東京世田谷区の先生のご自宅を訪ねた。緊張で一杯だったが私の願いを聞いてくださり、「現在マンドリンから離れているが、君が本気で勉強したいのなら来なさい」と入門の許可をいただいた。この上ない喜びだった。

レッスンに通い始めの頃、先生の足跡など殆ど無知に等しかったが、回を重ねるほどに先生の偉大さを感じ、失礼ではあるが本物のプロフェッショナルとはこういう方かという思いを強くした。レッスンは毎回充実して、そして練習の合間に話されるいろいろなエピソードは初めて聞くことばかりで、その後の私の活動にどれほどプラスになったか計り知れない。月1回、先生宅に2、3泊という形のレッスンが10年間続いた。

入門時、先生は74歳と高齢であったが、時折マンドリンを奏(ひ)いて教えてくださることがあった。その存在感ある音色には輝きと艶があり、情感溢れる深い表現は日本に住むイタリア人かと思えるほどで、到底私など近付けるものではなかった。後年、慶應義塾マンドリンクラブの指揮者として活躍された服部正氏は、「1960年6月26日、同大学創立50周年記念演奏会に田中先生を客演に迎えて私の編曲によるサルコリ作曲の『月に向かって』のソロを弾いていただいた。先生は久しぶりにステージに立たれた様子だったが一音一音の歯切れの良さ、比類なく美しい音色は学生オーケストラから突き抜けるほど伸びがあり、部員たちだけでなく聴衆にも深い感銘を与えた」と語った。田中先生はいつも物静かで温厚な方で、ご自分から自身の足跡を語ることはなかったが、こちらからお尋ねすると次々と思い出話をしてくださり、ワインを頂戴しながら夜を徹して過ごすことがしばしばで、それは至福の時間でもあった。私が田中先生からマンドリンを学んでいるというだけで、もう一人の巨匠、中野二郎先生からは終生目をかけていただき、貴重な文献資料等を贈られた。中野先生は田中先生を最も信頼できる先達として敬意を表しておられた。

田中先生の作品が日本風というよりおしゃれな欧風に感じられるのは、A.サルコリ氏に導かれイタリアのナポリに渡り、8年ほどの留学中に、念願の和声法、作曲法を優れた音楽家のG.ナポリ氏に付いて学んだこと、マンドリニストそして作曲家のR.カラーチェ氏と数年に亘り演奏を共にしたことに起因していると思われる。田中先生こそ純マンドリン音楽のバイオニアであり、ご自身のソロ演奏活動を通して大きな推進力となり、日本中にマンドリンの存在を示した最大の功績者と言える。



(右) A.サルコリ氏



チルコロ・フロレー第3回定期演奏会 1968
中央：田中常彦氏 高橋五郎

イタリアとの絆

文責 相澤 徹

21世紀に入ってから我が団の演奏会の特徴として挙げられるのは、イタリアに埋もれていて、私たち日本人がまだ知らないマンドリン曲（現代曲も含む）の選曲やイタリア演奏家との共演である。言い換えれば、現代イタリアで活躍されている方々との交流の深化である。その契機となったのは、2001年夏の「イタリアマンドリン研修の旅」（以後「研修の旅」と表記）であった。高橋五郎を団長とした3名がイタリアで2週間にわたり、南はシチリア島のタオルミナから北はブレシア、西はサボナ、東はフェラーラと、ほぼ毎日マンドリン関係者と会い、交流を深めながらマンドリンに関する様々な教を乞うことができたのである。

元々はマンドリン関係者のホームページの連絡先に、英語に堪能な部員がアプローチするところから始まった。2週間という限定された期間で、イタリア国内を飛行機や電車、バスで移動しながら関係者に会う約束を取りつけた。ただ残念なことに、きっかけを作った部員が参加することができなかった。約30年前にイタリアに遊学した高橋五郎と日本語しかできない2人の団員の計3名が、崇高な目的を達成するべく、イタリアに渡ることになった。その後、2001年冬にも3名、2002年冬には10名近くの団員がイタリアに渡った。ついには2011年9月に、大阪のアンサンブル・フィオーレ・ディ・オオサカの皆様と合同で渡伊し、イタリア国内3か所で日伊親善ジョイントコンサートを開催するに至った。

2001年「研修の旅」からの帰国後、早速同年の第36回定期演奏会で、ローマ在住のマンドリン音楽研究家である作曲家L.メレウ氏の作品を取り上げ、我が団にとっては苦手な不協和音や変拍子を取り入れた現代曲に挑戦することになった。「研修の旅」でL.メレウ氏からはローマの自宅で、マンドリンの古典音楽での奏法などのレッスンを受けたり、第二次世界大戦後のイタリアのマンドリン音楽界の盛衰について聞くことができたりした。その後3回以上、L.メレウ氏の作品を演奏している。

翌2002年の第37回定期演奏会では、ナポリからジャンネッティ・フェデリコ氏（マンドリン）とアントニオ・フェランテ氏（歌&ギター）を客演として招き、仙台に居ながらにしてイタリア・ナポリの風を楽しむことができた。「研修の旅」で入店したナポリの有名料理店「トラットリア・メディーナ」の専属演奏家として彼らが演奏をしていた。テーブルのそばで次々とカンツォーネを披露してくれ、私たちは彼らとすっかり仲良くなった。クリスマスには自宅まで招待してくれたほどである。2006年の定期演奏会に再来日し、さらに交流を深めることができた。

2004年8月にはジーノ・ネリ・アンサンブルと仙台合同演奏会を開いた。聴衆はこれまで聴いたことのない現代のマンドリンオリジナル作品に心が揺さぶられたのではないだろうか。「研修の旅」で訪れたイタリアの世界遺産都市フェラーラを拠点とした合奏団で、指導と指揮をしていたS.スカルツィーナ氏や大勢の団員に暖かく迎えていただいた。そこでマンドリン制作者のガブリエレ・パンディーニ氏とも出会い、工房で楽器に関する話で大いに盛り上がった。ジーノ・ネリ・アンサンブルで演奏された作品は、早速我が団のレパートリーに加えられ、以後何度も演奏会のプログラムに取り上げてきた。

2006年7月には、クラウディオ&マウロ・テローニ（ドリナ・フラティ指導・指揮）と合同演

奏会を行っている。仙台の電力ホールが満席になり、立ち見まで現れたほど盛況であった。ドリナ・フラティ氏には、「研修の旅」の際、マンドリン演奏家のカルロ・アオンツォ氏の紹介で会うことができた。ガルダ湖近くの別荘まで私たちを招待し、サマーコンサートに連れて行ってくれたり、気さくにマンドリンのレッスンをしてくださったりした。その後、幾度か来仙したドリナ・フラティ氏のマンドリンの妙技に私たちは酔いしれた。

2007年8月にニーノ・カターニア生誕100年記念第42回定期演奏会を開催した折には、マンドリニストのカルロ・アオンツォ氏とギタリストの長岡克己氏によるゲストステージを設けた。「研修の旅」で訪れたジェノバには、高橋五郎がイタリア遊学中に師事していたカターニア氏関わっていたリズベリオマンドリン合奏団があった。カルロ・アオンツォ氏はその楽団で活躍していた。アオンツォ氏は尊敬して止まないニーノ・カターニア氏に直接学んだ高橋五郎の前に興奮を抑えきれない様子だった。その楽団の会長をしていたテゴーニ氏は、若かりし日の高橋五郎を何度も自家用車で送迎したことを思い出し、劇的な再会を果たすこととなった。テゴーニ氏の計らいで、リズベリオマンドリン合奏団所蔵の楽譜の写しを取ることが許された。

2011年9月、イタリアの3都市（プレシア、フェラーラ、チェルヴィア）から招待を受け、日伊親善ジョイントコンサートを行った。プレシア、フェラーラでは、「研修の旅」以来つながりのあった人々との再会を喜びながら、夢のような一時を過ごすことができた。

最後に、「研修の旅」で印象深かったのが、シチリア島タオルミナ市マンドリン合奏団の皆様とシチリア音楽界の重鎮チコ・シモーネ氏である。合奏練習では、ハーブ奏者も加わって豊かなハーモニーが響いていた。シチリア独特の懐かしいメロディーをこよなく愛しているのが演奏の端々に表れていた。2回目の訪伊では一緒にコンサートに参加することができ、地元の人々との交流がより深められた。さらに貴重な楽譜を分けてくださり、我が団にとっても大事なレパートリーとなった。

1971年に高橋五郎がナポリに拠点を置いて、カラーチェー家と交流したり、ニーノ・カターニア氏に師事したりしたことが、我が団の血肉となってきた。その30年後の2001年の「研修の旅」によって、イタリアとの絆が一層強まった。それらを更に深めながら演奏活動に取り組んでいる今日現在である。



2011年9月 イタリア演奏旅行



ドリナ・フラティ氏より指揮棒を贈られる



出演者

チルコロ・マンドリニスティコ・フローラ

指揮者：高橋 五郎

第1マンドリン：大槻 光夫 大森 克之 小坂千代子 菅原 由里 成川 真優
加茂 妙 村山 真子

第2マンドリン：土屋 瑞枝 今泉理榮子 大槻 省子 大沼 芳枝 松本マスマ
中澤 祐子 西川 美穂 松野美由紀 鈴木みゆき

マンドラテノーレ：相澤 徹 相原 進 菊地 美里 鈴木 昭子 高野佐和子
高橋 洋子 平 丈恵

マンドロンチェロ：三浦 園子 手嶋 敬一 長岡 純子

ギター：鈴木静一郎 大内 寿彦 松本 道子 木村ひろ美 丹野 果歩

コントラバス：菅野 美紀

ソナーレ・マンドリーノ (第2部Ⅲ 出演)

第1マンドリン：高橋 紀子 赤坂 明子 加茂 妙 佐藤美佐子 手嶋 敬一

第2マンドリン：中澤 祐子 伊集院ルリ子 佐藤 裕子 鈴木 裕子 鳥崎 禮子
山並 明子

マンドラテノーレ：高橋 洋子 吉田 文

ギター：久我 たき

アンサンブル フィオーレ ディ オオサカ (第2部Ⅳ 出演)

第1マンドリン：葛原 睦子 大西 裕子 森元 佑子 大西あやか

第2マンドリン：坂井 章子 森川 範子 吉田 昌美 仲村 永江 南 厚子

マンドラテノーレ：山本 和子 高木以都美 吉崎真起子

マンドロンチェロ：持田由起子 河野久美子

ギター：辻 玉実 市川 珠代 福本眞理子

コントラバス：種池 美穂

プレットロ・ロマンティコ (第2部Ⅳ 出演)

第1マンドリン：渡辺 充子 加藤貴恵子 石川 美砂

マンドローネ：世古口有司

東野 隆行 (第2部Ⅳ 出演)



Circolo Mandolinistico Flora